

奈良市公民館運営審議会会議録

令和 6 年 10 月 4 日会議

令和6年度第1回奈良市公民館運営審議会会議録

開催日時	令和6年10月4日(金) 午後1時30分から午後3時30分まで	
開催場所	奈良市役所 中央棟地下1階 B1 会議室	
議 題 又は 案 件	1 新役員選出 2 令和5年度公民館事業実施状況及び利用状況について 3 令和6年度公民館事業の進捗状況について 4 その他	
出席者	委 員	今西委員、奥村委員、香川委員、紀委員、小西委員、小林委員、杉山委員、橋本委員、森委員、吉岡委員 【計10人出席】
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課長補佐、生涯学習財団事務局長、生涯学習財団事務局公益事業課長
開催形態	公開(傍聴人1人)	
決定事項	1 新役員の決定	
担 当 課	教育部 地域教育課	
議事の内容 ○教育長挨拶 ○【案件1】新役員選出 今西委員が会長に推薦され、承認された。 会長が副会長に奥村委員、杉山委員を指名し、承認された。 ○会議録の署名について 会長から今回の署名委員の指名及び確認をした(橋本委員と森委員)。 ○事前説明について 事 務 局 議事に入る前に事務局から以下のとおり説明 <ul style="list-style-type: none"> ● 委員の選出については、奈良市公民館条例第5条第2項において、学校教育の関係者、社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命することとされており、学校及び地域との連携、公民館利用者の立場や若者目線等、会全体のバランスを考慮した上で選出し、定例教育委員会で承認を得ている。 ● 「公民館のあり方」について、公民館利用者及び市民の皆様は不安をぬぐい切れずにいるとお声を受けて、この度、新規の委員の方もおられるので、奈良市の方向性を改めてお伝えしたい。 ● 令和5年度第1回公民館運営審議会で「新たな社会教育、生涯学習と地域の拠 		

点づくり(案)」として、地域ふれあい会館への公民館機能の移行について説明した内容については、令和5年12月議会で白紙撤回している。その上で、社会教育施設としての公民館を、誰もが気軽に立ち寄れる場所に、「まなび・であい・つながる場」にすることを目指し、令和6年度からは、月1回を目安に生涯学習財団事務局との意見交換の場を設けている。

- 議題の一例としては、利用者の高齢化傾向がみられる公民館において、全世代の人々に学びの扉を開くため、使用申請手続きの簡略化の方法について、また、若い世代や働く世代へICTを活用した学びの強化を図るため、ライフステージに応じた学習機会の提供方法について等が挙げられる。この他にも、地域に根差した公民館がこれまで把握した地域のニーズを踏まえて、地域課題解決型の学びの提供について等、地域の課題を地域のネットワークを通じて解決できる仕組みづくりの構築に向けた取組についても議論を重ね、公民館のより良い方向性について共に考える場としている。
- 公民館が市民の生涯学習の拠点となり、誰もが自由に学ぶことができる環境づくりの推進、全ての市民が共に学ぶことができる場を提供し、地域社会の一員として社会とつながることができる機会の充実を図ることを実現させるべく、前を向いて進んでいるので、公民館運営審議会委員の皆様からもこの場において助言をいただき、共に奈良市の公民館のより良い方向性について議論させていただきたいと考えている。

○【案件2】 令和5年度公民館事業実施状況及び利用状況について

生涯学習財団事務局 令和5年度の公民館事業について以下のとおり説明

- 令和5年度は37,386件・459,845人の利用があり、令和4年度と比較して、件数は10.7%・3,612件の増、人数は9.8%・40,938人の増となっている。なお、令和5年度より新たに指定管理をおこなっている男女共同参画センターと生涯学習センターは、11月から4月までの7ヶ月間、改修工事に伴って臨時休館したので、生涯学習センターの件数と利用人数はともに減少している。
- 当財団では、平成22年度から公民館事業に5つの重点分野を設け、全ての重点分野での事業開催を必須とすることにより、市内全域での充実した事業展開に努めている。また、01から07までの7つの分類にわたりバランスよく、550件の事業を実施し、延べ56,035人の方にご参加いただいた。
- 令和4年度と比較すると、公民館事業数は3.4%・17件の増、受講者数は13.4%・6,139人の増となった。大きく増加したのは、「家庭生活・市民生活・娯楽に関する事業」の受講者数が、令和4年度から13.6%・1,805人の増となり、「体育・スポーツ・レクリエーションに関する事業」の受講者数が、令和4年度から50.2%・2,700人の増となっている。これは、新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類感染症へ移行したことに伴い、人々が集う機会や、体力づくり、高齢者のフレイル予防へのニーズが高まったことによると推察される。
- 令和5年度公民館主催事業は、公民館24館の主催事業に加えて、「奈良ひとまち大学」と「子ども奈良CITY」についても財団全体として取り組んだ。

- 生涯学習センターの「託児ボランティア養成講座」は、子育て中の親が講座を受講しやすくするための取組み。令和 5 年度は、登録者を含めて 17 人が受講され、その結果、新たに 9 人の新規登録があり、今後、各公民館での託児付き講座にて活躍していただく予定。
- 平城西公民館の「30 分集中！朝活 DVD 体操」では、継続的な運動習慣づくりとフレイル予防、人々の交流のため、毎週土曜日に DVD を見ながらストレッチ体操をおこなった。口コミもあり、受講者数は令和 4 年度と比べて、766 人の増となった。
- 富雄南公民館の「YouTube を始めよう！」では、これまで公民館を利用しなかった層にも興味を持ってもらおうと動画づくりのコツなどを学習した。
- 都跡公民館の「みあときつずチャレンジ隊」は、地域在住の小学生のために、地元に住む大学生や新社会人である若者隊が職員とともに年間計画を立て、子ども達の体験活動を支えている。地域教育協議会や民生主任児童委員などの地域の皆様のご協力を得ながら実施した。長年の継続事業ということもあり、開始当初に小学生だった子が、令和 5 年度には大学生となり若者隊として活躍してくれている。
- 地域にある身近な集いと学びの場という公民館の特性を生かして、子どもから若者、高齢者まで、興味をもって新しいことに気軽に参加いただけるよう、ボランティア等を育成しながら、職員が地域住民とともに工夫をこらして多様な事業を展開している。
- 今回ご紹介した他にも多数の事業があり、当財団のホームページである奈良市生涯学習支援サイト「まなぶなら」にも、講座情報や「こんな講座ありました」という、ふりかえりのコンテンツを掲載している。

【質問・意見等】 ■:意見 ◆:質問 ☆:回答

委 員

- ◆ 「みあときつずチャレンジ隊」では、学生や地域の様々な組織と一緒に運営したと受け取ったが、利用者以外に地域や市と連携して取り組むことについて、公民館全 24 館ある中で、全体としてどう考えているか、お聞かせ願いたい。

生涯学習財団事務局

- ☆ 地域の方々と語り合いながら地域課題を考え、その課題を解決できるような学習活動を地域の方とともに興していくことはやはり大事だと思っている。「みあときつずチャレンジ隊」では、地域の子どもたちと一緒に育てていこうと、学校ではできにくいことも、地域の社会教育の現場の中で、地域に住んでいるご縁を大事にし、若者たちを巻き込みながら彼ら側の声を聞き事業を組み立てている。それ自体を長年続けていくことによって、子どもたちが若者に成長し、地域活動に根づいていくという仕組みになっている。これらはあくまで都跡公民館の地域のエリアの中でやっていることなので、他のところですぐに活用できるかというところではないと思う。財団の中で特に今年重点を置いている「地域活動との連携」をきちんと見える化することから始めようと思っている。各館でそれぞれ地域連携

をしているが、地域の特性に応じて連携の形は異なる。それらをまず見えるようにして、しっかりとその検証をしていくということが大事になると思っている。来年度の目標にもそれぞれ見える化したものをブラッシュアップしていこう、あるいは広げていこうと、いま職員の中で意識をまとめていっているところ。

委員

- ◆ 田原公民館の「子育ておはなし広場」について、この講座がきっかけで子育てサークルが結成されたとあるが、結成された後はどのような活動をされているのか、自主サークルなのか、あるいは田原公民館がこの後ずっと面倒を見ていかれるのか、現状をお聞きしたい。子育てサークルを作るのはラク。ただそれを維持していくのがすごく大変なので、そのあたりを公民館がちゃんとフォローできているのか、あるいはもう任せっ放しということになっているのか。子育てサークルは大体3年でなくなっているの、そのあたりが重要なと思う。

生涯学習財団事務局

- ◇ 担当者の方から直接聞いたわけではないが、田原公民館にも社会教育の専門職員がいる。なので、もちろんその中で講座をしてグループが育成されたら、それで終わりではない。見守りが必要になると思う。グループの作り方あるいは運営の仕方、仕組みづくり、そこから考えてアドバイスをさせていただいている。また、公民館の主催講座として「子育ておはなし広場」自体を今年も継続しており、そこにも参加していただきながら自主グループとしても並行して活動いただいている。また、夏前(7月)とクリスマス(12月)の時期に「親子お楽しみ会」なども開催し、そこでイベント的なものも含めて活動していくことを公民館として支えている。

委員

- ◆ 公民館分館の利用者が地域によって少なくなっているところや、高齢化で分館の維持が難しいという声も聞いている。指定管理者が違うのでなかなか難しいことだと思うが、例えば、定期的に各館と分館とでやり取りがあるだとか、公民館と公民館分館の関係性についてお聞きしたい。

生涯学習財団事務局

- ◇ 地域によって特性があり、分館のないところもあるので、一概には言えないが、分館や地域ふれあい会館があるところに関しては、出張の事業などを開催している。平城西公民館の「出前公民館 in 右京」や、都跡公民館の「出張！高齢者ふれあいサロン」なども開催しており、それぞれ分館に行って事業をして、参加いただいている。また、分館は公民館との連携も大事だということで、例えば分館でDVD体操の講座を開き、そのあとDVDを用いた活動を自分たちで持続的にやっていただいている。単に持って行ってそれで終わりではなくて、そこに活動を興して分館を刺激しながら、社会教育・生涯学習の取り組みを展開しているエリアもある。

委員

- ◆ 自主グループの活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で一旦冷え込んでしまって心配だったが、主催事業数や公民館の利用者数を見ると、公民館活動がだん

だん回復してきている。自主グループの登録件数が減っている等、館によって状況が違うと思うが、事務局で気になる情報や共有できる情報があれば教えていただきたい。

生涯学習財団事務局 ☆ 自主グループは、高齢化や少子化、あとはコロナ禍によって集まりにくくなったということで、大きく減った。我々公民館としても、自主グループは社会教育・生涯学習の活動の自主的で継続的な運営としてはとても大事なものだと思っている。なので、公民館との共催講座という形で、その方々に講師になっていただき、改めてエンパワーメントするための事業を積極的に打ち出すようにしている。事務局からも方針の中に入れて今年度も来年度もそこをしっかりと進めていこうと声を上げていっているところ。各館それに応じて公民館で活動している自主グループを再活性化させるということを目指している。公民館事業をした後に、新しい自主グループを生み出していこうということも、積極的に進めて声をかけ合っている。

委 員 ■ 主催事業については、この 6、7 年で随分中身が変わってきたなという印象を持っている。「みあときっずチャレンジ隊」のような事業は長く続けていかないと成果が出ない。そこは着実に出てきている。それだけでなく、各館の看板事業、現代的な課題に即した特色ある事業もさらに充実してきている。YouTube をとりあげたものであるとか男性を対象にしたもの、フードバンク等、新しい事業に各館が創意工夫を凝らしてチャレンジされている。主催事業から、住民の自主的な学習活動に橋を渡していくところを見守っていきたいと思う。

委 員 ■ 平城西公民館と平城公民館で朝活の体操をしておられ、どちらもすごい人数が参加されているのにびっくりした。私たちも、地区社協で通いの場というのを作るように求められているが、なかなか人が集まってこない。運営するのも大変なので、公民館で週 1 回定期的に健康づくりをしていただけるのはとてもありがたい。この中から自分たちでやってみようという方が出てこられて自分たちで運営されていくようになれば、もっといろいろな感じに広がっていくのではないかなと期待している。

委 員 ◆ 富雄公民館の「学校に行きたくないに、どう寄り添う？」について、継続されて、何らかの形になっているのかお聞きしたい。うちの学校でも、不登校の子どもたちの親御さんの話し合いの場を毎月 1 回から 2 回開催している。

生涯学習財団事務局 ☆ これは学習会として公民館主催事業として組んだが、一方で公民館のおよそ半分ぐらいのところ奈良市の委託事業「家庭教育サポートネットワーク支援事業」に取り組んでいる。開催にあたっては、その事業の企画自体を住民の方と話し合ったうえで練り上げている。そこに民生委員、学校関係者や PTA など、そういう方々が入った形で、いわゆる地域の支援者の方と一緒に学ぶあるいは当

事者の方から声を聞きながらそれをもとに事業化していくということをしている。元々二名公民館が実施館となる文科省の委託事業(「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」)から進み、奈良市全域の公民館で展開している。スタート時点から民生委員等と繋がることによって、その方々も含めて講座を受けた後、当事者が孤立しないように、声をかけて見守りをしていくところも実際進んでいる。また、学校と相談させていただきながら、学校の方にも声をかけて、課題のあるご家庭の方に聞きに来ていただくとか、そういうことも促すようにしているという状況。自主グループ活動としては、二名公民館で「二名まなぼう会」が設立され、支援者の集いや学習支援団体も結成しており、公民館で職員も入り、毎月夜に会議をしている。

委員 ◆ 家庭教育サポートネットワーク事業は、全館で取り組みをしているのか。

生涯学習財団事務局 ☆ 全館には至っていないが、公民館自体がブロックを組んでおり、ブロックの中で一緒に考え、基本的には全館で取り組みをしてその中で必要なところに残しているという状況。

○【案件3】令和6年度公民館事業の進捗状況について

生涯学習財団事務局 令和6年度公民館事業の進捗状況について以下のとおり説明

- 公民館24館と財団の事業として、419件、1,663回、募集定員9,443人の計画を組んでいる。
- 「公民館でとっておきの夏休みを2024」のチラシについて、毎年夏休み期間に合わせて、地域限定の事業を除いた児童対象の事業をチラシにまとめている。小学校等に広報のご協力をいただき、多くの子どもたちの参加があった。
- 東部4館で取り組んでいる「プチ田舎暮らし」のチラシについて、これは奈良市東部地域における食・農・技に触れる体験をとおして、東部の魅力を知ってもらう事業。
- 「若草公民館50周年記念文化祭」のチラシについて、秋に、複数の公民館で自主グループや地域団体と連携したまつりの開催を予定しているので、ご都合のよい方は、ぜひお越しいただきたい。

【質問・意見等】 ■:意見 ◆:質問 ☆:回答

委員 ◆ 青少年の分野で公民館のお仕事体験とか「みあときつずチャレンジ隊」とか、親子や子どもを呼び込むための施策が今回多いと思った。前回は申し上げたように、どんなにいい企画内容であっても、周知ができなければ、意味がない。周知の方法として、今のお母さん方に聞くと、TikTok(ティックトック)とか、短い動画で短い情報が得られる方法もあるらしい。お母さんたちに対しての今どきの周知方法は何か手はあるか。

生涯学習財団事務局 ☆ 公民館から発信している中では SNS は基本的にまだ活用できていない状況だが、公民館の HP は気軽に入っただき、そこから申し込みも可能。学校に関連するものに関しては、学校の方にお声掛けさせていただきながら、学校のさくら連絡網でお手元に届きやすいように、可能な範囲でお願いしている。また、今回「公民館でとっておきの夏休みを 2024」のチラシを作り学校のご協力のおかげで全学校に配布することができた。この宣伝効果はすごく大きかった。長文を読むに足りない部分があると思い、手短かに伝えることを心がけている。入りやすくして、奥を深くというところで、広報に取り組んでいる。

委員 ◆ このチラシは、簡潔で見やすくすごくよくできている。どういうところにお持ちになっているか。

生涯学習財団事務局 ☆ 全ての小学校に届けており、公民館にも置いている。また、そこから派生してここに置きたいと館から情報があれば、その部数をそちらに割り振っている。中学校の事業に関連する場合は、地域の中学校に館からお願いしている。さくら連絡網の方がうまくいく場合は、データとして送っている。

委員 ◆ 公民館の主催事業は公民館が考えているのか。人数が足りないから来てくれないかという声がよくかかる。

生涯学習財団事務局 ☆ 公民館で、社会情勢を読みながら、これは必要だろうということを検討した上で実施する事業もあるが、子育てひろばに来られているお母さん方から最近の悩みごとなどを聞きながら、ニーズを感じ取ったもの楽しくできるアレンジを加えて実施することを心がけている。ただ内容によっては、社会的に必要ながなかなか集まりにくいというのは実際あるので、そういう場合にスタッフの方から、これはぜひ受けて欲しいとお声掛けさせていただいている。

委員 ■ 働くお母さんが多くて、平日に開催されるとどうしても行きたいけど行けないという声もあるので、その辺も検討いただけたら嬉しい。

生涯学習財団事務局 ☆ 土日の開催についても考える必要があるだろうということで、年 4 回の職員研修でも、開催日や開催時間について、意見交換をしている。働く女性の方が増えてこられ、男性も育児の方に入ってこられるというような状況で、土日の活動がやはり大事だと思っている。公民館は幸い土日開館しているので、そこに事業をうまく展開できないかと今模索している。一部の館では土日に子育てひろばや学習会を盛り込んでいる。経過途中ではあるが、委員の意見を大事にさせていただきたい。

委員 ■ 公民館が主催して住民の声を拾い上げながら作ってだけでなく、利用者自身が企画を考えて利用者主体で講座を作っていく試みが、西部公民館など各

館で展開されている。職員の皆さんはどう伴走していくべきかとお苦勞もされていると思うが、非常にいい取り組みだと思う。

生涯学習財団事務局 ☆ 住民の方とともに考えることをすごく大事にしている。高齢者の方々についても、応援されるだけでなく自分たちが応援する、あるいは、自分たちがやりたいことを形にするということをお手伝いさせていただく。高齢者学級などでも、年間の最初に年間計画と一緒に組ませていただいて、事業計画を共に考え、時には講師を呼ぶ際は一緒に呼びに行き、学びたいことを体験していくというのを我々がお手伝いしている。主役は参加者の方々なので、スタッフはそのためのサポートという意識で動いている。

委員 ◆ 学校に行きにくい子どもたちの講座は今年度もされているか。

生涯学習財団事務局 ☆ 家庭教育支援の事業では、不登校の子どもたちに寄り添うということをおすごく大事にしており、事業にも展開している。なかなか昼間行くところがなく家の中にもってしまいう状況の中、一歩踏み出すために、公民館のロビーや図書室が活用できないか今検討しているところ。実現できるように、職員同士でも話し合っ、地域の中に気軽に来られる居場所を公民館の中に作り、それを職員が見守る、あるいはその職員が専門の方々となつなぐという部分も含めて、何とかできないかと今検討を進めている。

委員 ◆ 公民館だけに留まらずに、行政の関係部署とも繋がって情報共有なりネットワークを作っていられるということで理解しているか。

生涯学習財団事務局 ☆ そう理解していただいていると思う。都跡公民館ですでにテスト的に進めているが、「みあと★フリー」という取り組みを展開している。これは地区社会福祉協議会や奈良市社会福祉協議会、民生主任児童委員、奈良市フードバンクセンターとも連携しており、地域の中に子どもたちの居場所をいくつも作るという取り組みをしている。都跡地域は南北に長いので、エリアを北、中、南に分けて、子どもたちが気軽に行ける場所として作っている。さらに専門性も必要だということで、ちょうど地域に子どもセンターがあるので、子どもセンターの児童心理士などとも声をかけ合いながら、その居場所を奥行き深いものにしようということで進めている。まだ一、二年ほどの活動になるが、うまく機能してきたら、それをモデルにしながら他の地域でも展開できないかと今検討している。

委員 ■ ぜひ他の地域でも立ち上げていただければありがたい。

委員 ◆ 「みあと★フリー」の時も色々な機関や団体があると思うが、公民館の役割としては、ファシリテーターなのかコーディネーターなのか。

生涯学習財団事務局 ☆ 公民館はファシリテーター的な部分が多いと思う。団体や機関をつなぐコーディネーターでもあるかと思う。ただ一方で、福祉や学校教育を大事にしないといけない。その中でそれを支える人たちを育てるという部分は公民館の強みだと思う。要は、子どもが活動する居場所のために、子どもを支援する人たち自身が学びたいことを公民館が学習会として提供する。それによって、そこでしっかりと学んだ人たちが子どもたちに関わっていく。運営を支える部分よりは支え方を知ってもらふ部分に、公民館として強みがあるのかなと思う。もちろん時には支える側にもなるが、我々の社会教育という支援の中でいうと、今申し上げたような部分が大事になると思っている。

委員 ■ 夏休みのこのパンフレット見ても、基本的に小学生が対象になっている取り組みが多いと思う。実際、不登校についての取り組みの題材があったが、やはり中学生にスポットを当てるとか、今部活動の地域移行の話とかも上がっているが、文化的な面もスポーツ的な面も公民館活動の中にはものすごくたくさんの指導者の方もいらっしゃるんで、多少そういう中学生との繋がりを考えながら、これからの学校教育も変わっていく中に公民館がどれだけ地域として中学生を受け入れていただけるのかなということが大きな課題だと思う。地域教育が公民館の大事なところだと思うので、そういう形の取り組みに視線を移動していただきたい。

生涯学習財団事務局 ☆ その辺りをどのように展開していこうかというところは、やはり早く議論していかないといけない課題だと思っている。青少年や若者は、これをやりなさいという形でやる人たちではなく、むしろ自分たちは何がやりたいかを話し合いながら民主的に作っていくこと、本当にやりたいことを揺らぐずに進めていくのが事業としては大事だろうと感じている。公民館がそこにどうコミットできるのかというところは学校とも連携しながら進めていかないといけない。課外活動などは実際、公民館の活動にすでに参加している子どもたちもいる。ただそれが学校と組織的にまだ動いているような状況ではないので、今後検討していかないといけない。子どもを中心として彼らに、学校としてあるいは公民館として、地域としてどういうことができるのかということを地域の中で考える場を興していくのが公民館として大事だと思っている。

委員 ■ 子どもに関わっていただく人材を公民館の方々も一緒になって考えていただくというところ、やはり私も以前から思っていたのは、社会教育、学校教育があるが、特に社会教育は非常に経験を積まれたスキルの高い方々が、色々なことを学ぼうと集まる場だと思う。インプットだけではなくアウトプット自体も学びだと、諸先輩方を見て特に思う。そして、そのアウトプットとは具体的に何かというと、住まれている地域の課題を見出して、課題解決のために何か学ばないといけない部分が出てくると思うが、わたしの経験上、地域の方々それぞれ自主的に自分のライフワークとして、色々な課題に取り組んでおられる方がたくさんおられる。その中で、地域の子どもたちを何とかしないといけないのでは、お母さんた

ちがしんどがっているとか、母子家庭が多いじゃないとか、そういうことに気づかれて、人が集まっている現状がもう事実奈良市にある。それが地域教育協議会だと思う。そこに集まられている方も今、ここに面々がおられるのでやはりもうそれが証明。一つの地域の課題として、子育てや教育や地域の子どもたちの将来について、真剣に考えている方々がたくさんおられるので、その方々が集まる拠点の一つが公民館であってもいいなどは思っている。人材は一から育てなくても地域にはたくさんおられる。その方々が集まる場、地域教育協議会の中に公民館長も入ってもらっていた。公民館はそこで、民生の方や社会福祉協議会の方々、子どもたちのことを本気で考える方々と出会う、要するに、繋がり合ったら発想が湧いてくると思うので、ぜひ公民館で、一から人を育てるという発想ではなくて、地域の方々の人材を繋いで、見つけて出会うというのも一つの方法ではないかなと思う。地域にそういう仕組みができれば学校としては非常にありがたいので、ぜひともそういう方向も考えていただければと思う。

○【案件 4】その他

生涯学習財団事務局 その他案件について以下のとおり説明

- 「奈良市社会教育推進計画」の目標の一つにある社会教育施設として、誰もが気軽に立ち寄れる場所にする事で、「まなび・であい・つながる場」をつくり、それらを充実させるという観点から、次の 2 点についてご意見をいただきたい。
- 「公民館の共用スペースの状況調査について」、令和 6 年 8 月 1 日時点で情報提供、休憩・談話スペース、図書室の様子や利用、図書貸出状況等について公民館 24 館の調査を行った。これらの現状を踏まえて、委員の皆様から公民館の共用スペースを活用するアイデアをいただきたい。
- 「公民館における青少年・若者の参加・参画の促進について」、今後、奈良市の公民館において、青少年・若者に寄り添った事業をどのように展開するかについて、ご意見をいただきたい。

【質問・意見等】 ■:意見 ◆:質問 ☆:回答

委員 ◆ 「若者に寄り添った」という言葉があったのですが、何か若者に力を借りたいと思っておられるのか、もしくは、中学生や高校生の方に、何か居場所になったらいいなと思っておられるのかどちらか。

生涯学習財団事務局 ☆ 若者たちがまず公民館で活動したいと思えること、それを受けての活動なのか、やる側の活動なのか、そこは分かれるところだと思う。また、若者たちにとって、何か活動していきたいということを後押ししていく取り組みなのか、あるいは若者の生きづらさなどがいわれる時代になっているが、そういう中で彼らにとってのケアとしての場所としてどういうものが必要なのか、それらのことを総合的に、こうして欲しい公民館像みたいなものを参考として教えていただきたいと思い、提案さ

せていただいた。

委員 ◆ ターゲットが、若者をケアする方なのか、発想をお願いするのか、両極端のように思う。公民館ごとにその地域の課題を感じておられるのか、ケアとして若者の力を貸しておられるのか、それとも若者の力を欲して公民館を盛り立てていこうとしているのか、それは公民館の中でそれぞれ思っておられることかなと思うがその辺はいかがか。

生涯学習財団事務局 ☆ これは一例だが、みあときつずキッズチャレンジ隊では、小学生の頃から関わって支えられる側から支える側になってくれているが、そんな彼らにとったら、「もしかしたら公民館が居場所かもしれない」ということを言うようになっていく。そんな中で新社会人になった後に、職場でしんどいなという気持ちになった時に、公民館に立ち寄って、自分を立て直すということをされる子も出てきている。そういう中でまた次に、支え手になって頑張ってくれる。一度公民館で羽を休めて、もう一度頑張ろうという気持ちになれるそういう場所は一つのあり方かなと考えている。

委員 ◆ 公民館の共用スペースを活用するアイデアについて、施設の設計上、図書室やロビーに本棚を置くスペースのない館がある。共有スペースがない館に対しての私たちのアイデアというのはいかがか、どんなものを要求されているのか。実際、各館によって実情がちがいが各館共通の基本的なことはないので、各館で考えていただいたら一番いいと私は思う。何を期待されているのか。

生涯学習財団事務局 ☆ 各館で考えていくということの後押ししていただけることが今わかったので、職員だけではなくて、その利用者の方や地域の方にとってどういうロビーが必要なのかということを考える機会をしっかりと作って、少しずつ形にして取り組んでいかないといけないと今のご意見を受け取った。

委員 ■ 各館の自主グループとかたくさん足を運んでくださる方を対象に、共有スペースを考える会を作ってもいいのでは。その地域の人達が望むようなスペースができて上がると思う。

委員 ■ 地域に育てられてきたと感じている子のなかで、社会人になって大変な時に、公民館に一定リフレッシュに来られるという子が出てきたというのは珍しいことで、最近見かける大学生の傾向としては、例えば、なら燈花会のボランティアに遠方から2時間かけて来る子がいた。ボランティアがしたいけれど、自分の住んでいる地域では何をしたらいいのかが分からず、先輩に誘われて遠方の奈良まで来たそうだ。公民館側から大学のボランティアサークルなどに、事業のお手伝いなどのお声掛けをされると、そこで繋がりができて拠点になる。拠点が出来れば、学生が自ずと新しい子を見つけてきてくれるという流れができるのでは。

委 員

- ◆ 公民館は自主学習グループが使われる場所というところがあったので、気軽に立ち寄れる場所という考え方があまりない。部屋を借りる際にはグループ登録をして使用しないといけないと思うが、公民館のスタッフにこんなことがしたいと子どもたちが言ったときに、気軽に借りられる環境にするのか、自主サークルとしてそういう場所を他のサークルの方々も作るという形なのかがわからない。

生涯学習財団事務局

- ◇ 両方の話だなと思う。子どもたちがやりたいということをするためには、保護者が必ずそこには必要になってくるが、その中で、公民館のひと部屋を借りて、活動を深めて広げていくことはあると思う。一方で、グループを招く形での活動の参加もあるかと思う。公民館で一部出てきているのはサロンづくりという形で、この日は複数のグループが主催で広場を展開する。そこには老若男女誰が来てもいいという日を設けたりしている。共用スペースでは、各館によって図書室の有無や、本の質も異なる。新しい本がたくさん集まっている館もあれば、古くて何十年も経っているような本を置いている館もある。そこはまだまだ充実できていないというのが実際。そんな中で、例えばどこかの部屋を、地域の方々とともに開放的に使うなど企画の場所を作っていくこともあり得ると思う。やり方は地域それぞれだが、どんなやり方がいいのかを公民館職員に相談していただいたら、相談に応じて一番良い方法を一緒に考えることができると思う。制度的には、5人以上の公民館登録があれば、部屋を使っただけのことになっている。また、要件自体も少しずつ下げていって、少しでも多くの方に気軽に使ってもらいやすくするように、公民館登録の要件に当たる名簿や会則の作成なども緩和している。その他についても簡略化を進めている状況なので、何とか発信していきたいと思う。

委 員

- ◆ 騒音問題に関してはどうお考えか。子どもたちの声がうるさいという苦情が近隣から来るという声も聞いているが、子どもたちが集まれる場所となるとどうしてもにぎやかになる。クレームが入るといっているのであれば、その場所が使えなくなっていくので、その辺もどうかと思った。

生涯学習財団事務局

- ◇ 騒音の問題は、公民館がどうしても住宅の建てこんだところに作られた場合に出てくることがあり、職員からも時々報告が入る。職員には、近隣との関係をきちっと作っていくことが大事と話をしている。もちろん窓を閉めるなどして防音の対策も頑張るが、それとともに騒音にしないという意味で、近所の方との関係づくりが大事というふうに取り組んでいる。物理的になかなかどうしようもない部分はあるかとは思いますが、気持ちの問題は変えていけると思っている。子どもたちと例えば近隣にご挨拶に行くとか、顔の見える関係づくりも大事だと、職員同士で話し合っているところ。

委 員

- まず、今までの審議の中でも感じたが、公民館のあり方について少し整理した

議論が必要な局面かなと改めて感じた。公民館は地域のあらゆる住民に開かれている場でありながら、その実現にはまだまだ道のりがある。公民館は生涯学習や学習権を保障する場所であるが、同時に、地域教育協議会の話のように地域の方々の活動拠点としての機能も求められている。去年までの経緯を含めて奈良市の公民館は何を目指していくのか一旦整理し、議論することが必要だと思う。今日から第38期の審議会が始まるが、ここにいるメンバーには第35期、第36期から続けておられる方もいる。これまで毎回の公民館運営審議会では、財団から報告をいただいて、それをもとに議論を進めてきた。それはそれで非常に意味があることだとは思いますが、では第38期の2年間を私たちがどう活動していくかといったときに、今後奈良市の公民館がどうなっていくのか、奈良市民が注目していると思う。利用者もそうでない方々も奈良市の公民館はこんな役割で、こんなふうに使えるのだということを、一旦明確に整理された方がいいのでは。事務局や財団もぜひテーブルをご一緒しながら議論して、何らかの形を残していくべきではないかと考えている。2点目に、社会教育に関連する会議では、定例の教育委員会の会議や社会教育委員会会議が先だて行われている。社会教育委員会会議は公民館に特化して議論する公民館運営審議会とは全くの別物だが、社会教育に関わる計画がもうすぐ節目を迎える。これから次の5年間、奈良市の社会教育を推進する計画が社会教育委員会会議で2年間かけて議論されていくところである。では、公民館の議論をどこでしていくのか、どのような見通しをもって進めていくのか、社会教育委員会会議でもまだ把握されていない。私たちもこれからの公民館のあり方をどこでどんなふう議論するのか、見通しがまだ持ちにくいところもある。せっかく新しい委員も交えて意見を交換するチャンスもあるので、公民館のあり方についての議論の見通しを皆さんと意見交換したい。

委員

◆ 地域教育課でタイムスケジュールがあれば教えてほしい。

事務局

☆ 計画については、来年もう1年任期があり、それを経たタイミングで新たな計画に移行していくという形が大きなスケジュール感であり、この移行期間の間に具体化していく予定。社会教育の計画なので公民館の計画ではないが、公民館はその中においても重要な一部分になると思っているので、是非ともご議論や意見をしっかり伺いながら、それをどこまで反映していかしてもらえるのか、どういう形で具体化していけるのかを含めて検討していけたらと思っている。公民館運営や社会教育では、例えば公民館で色々な事業や企画を進める中で、押し付ける形では決して続かないと思う。やはり社会教育の基本は持続可能であることかつ、参加者皆さんのモチベーションや参加する意味がないと続かないと思う。利用される方、提案の恩恵を受ける方だけでなく、それを支えている方にもメリットがないといけない。それが学びなのかなと。参加した人の一部が学ぶのではなくて、みんなが学べるということを実感してもらえるようになってくれば、おのずと人が集まり、人がそこに参加する意義を求めて、事業が充実していくと思っているので、是非ともそういった視点も含めて検討をしていけたらと思っている。

- 委員 ◆ 今おっしゃったことが次期の目標になっていくということか。
- 事務局 ☆ 今漠然と思っている部分ではあるが、こういう方向性が必要だということも含めて、色々な意見をいただきながら、来年1年整理を図っていけたらと思っている。
- 委員 ■ ちょうど1年前の公民館運営審議会では、そこで提示された公民館のあり方を考えるビジョンについて、それが住民のどのような声を踏まえて作られてきたものなのかということを繰り返し指摘してきた。奈良市民の公共施設なので、利用者の方々や、まだ利用されていない方々が、どんな施設を求めているのかということなどをどのように私たちが集約して公民館のあり方を考えていくのかが勝負所だと思っており、その点で現状には強い危機感と緊張感をもっている。年に2回しかない公民館運営審議会である。それぞれの特性が異なる奈良市24館の公民館のあり方を考える議論を、1回2時間の審議会でもこまごまの審議をしているのか。委嘱を受けた委員として責任を感じる。公民館のよりよい運営のために力を尽くしたい気持ちでいる。
- 委員 ■ 参加人数だけではなく、事業別の年齢などの指標があればおのずとニーズが分かってくるのでは。公民館によって特色があると思うので、人数の分析だけではなく、どういうニーズでどういう方が来ているかを把握しておくことで、来年度からの計画にも参考になると思う。
- 委員 ■ エンゼルプランというのが国から出され、公民館は高齢者のためだけのものではなく、親子で行っていいと意識づけが行われたのが2000年ぐらい。たかだか24、25年ぐらい前の話。でも大学生が関わってきている公民館の活動を踏まえて考えると、やはりそれぐらいの年がかかるのかなと思った。公民館には地域性があるので、特色が出て当たり前だと思う。その特色を生かすためにも、根幹の公民館のあり方とかがどんと据えないと、色々な特色が出せない。根幹があつて特色がある公民館だから面白い。面白いから人が寄ってきて、子どもたちもだんだん育ってきている。今のお母さんたちは、もう当たり前で公民館に出向いていける、そういう時代や社会環境になってきている。それを踏まえて考えるとやはり私も根幹をきちんとここでしとかなないといけないと思う。そうでなかったらまたふれあい会館にしますみたいなことが出てこないとも限らない。それってすごく怖いこと。今市民の中でも、引き続き公民館を考える会というので活動されている方もおられる。公民館のあり方とか地域の中の公民館とはどんなものみたいな、そういう意識がすごく高い。やはりそこにちゃんと答えるべきなのがこの審議会ではないかなと思っているので、そこに時間を費やしていただけたらと思う。
- 委員 ■ 大学生は、地域の課題に対してそれぞれみんなアンテナが立っているような感覚がある。そのアンテナというのは、それぞれバラバラで、子どもに対するアンテナ

ナが高い学生、高齢者や福祉のアンテナが高い学生、様々いると思うが、そこにアンテナはあっても、例えばどうしていったらいいかわからないとか、自分はこうしたいけれど、それを言ったところで大人は聞いてくれるのかなとか、そういう不安があったりするところは、何度か見聞きしたことがある。大学生や中高生の若い人たちが、自分たちがもし公民館を使用していくなら、どういうふうなことがあれば使いやすいかなど、自分たちで自分ごととして考えていく場があればいいと思った。

委 員

- 新しい計画に向けて、市民の子どもから高齢者まで、色々な人の声が聞きとれる場というのを、多様性があるのであれば地元で公民館ごとに、みんなで公民館をどうしていくか考えて意見を吸い上げていかないと時間がない。もちろん一部の人間であれこれ考えることも必要だが、今まで聞こえていないところの声を聞く場を開かないことには、聞こえてこない。そういう声がたくさん出てきた中で、できることできないことはもちろんあると思うので、市としてどうしていくかということは、また審議会で揉むとか行政の方が揉むとかが必要だと思うが、そういう場を全館でしようとか誰かが言って実行してくれないと、うじうじ言ってもしょうがないという気がする。

委 員

- ◆ 新しい計画に向けて、公民館で何か機会を設けて話をしようとか公民館ごとに話合った声を届けて計画に反映させてもらおうというような動きは今あるか。

生涯学習財団事務局

- ◇ 「子ども奈良 CITY」では、「世界がもし 100 人の村だったら」というワークショップなどを通して、中学生から 22 歳くらいまでの若者たちが一堂に会して、世界のことを学んでいる。それを進めていながら、西部公民館の体育室を使って、「子ども奈良 CITY」という自分たちのまちをつくらうという取り組みをしている。自分たちにとって何が必要なのか、どんなまちにしたいのかを体現していき、お店を開くなど模擬的に進めていくプログラムになっている。彼ら自身が自分たちの声で今必要なものを語っていくときに、私たち職員もハッとさせられることが非常に多い。一方で、公民館自体で考えたときに、公民館も市民の方の思いをどこまで分かりきれているかというのがある。事業の開催に応じてお話をし、アンケートもとらせていただきながら、年代ごとの部分は一定把握している。ただそれは公民館に来ている人たちから聞いている部分が非常に多い。公民館に来たい人や公民館の存在を知らない人もまだまだ少なくないと思っている。そこは自覚を持ちながら、公民館のことを語る会というのを進めていきたい。以前、公民館全館で「おしゃべり会」を開催して、2 年間かけて全館から意見を聞かせていただいたという経緯がある。その時にグループの方や講座受講者の方々から声を聞かせていただいて、すごく生きた経験があるので、今言ったことは決して実現不可能ではなくて、しっかりと聞いていく作業というのは、今後の計画づくりにとっても必要だと感じた。

委員

■ 発行から時間は経っていると思うが、「おしゃべり会」の報告書について、次回の審議会でも結構なので共有をお願いしたい。各館でテーブルを囲んで、日頃の公民館の関わりをざっくばらんに語りながら、自分たちにとっての公民館の意味やあり方にお互いに気づき、学び合う実践が、2年間かけて24館で1館ずつ進められていった。今後の公民館のあり方を考えるという地域教育課からの去年の問題提起自体は間違っていないと思う。社会情勢が大きく変わる中で、公民館が何を貫き、何を变えていかなければいけないのか議論をしていかなければならない局面にあると思う。そして、その中で、「地域自治」「住民自治」という言葉が使われていた。それが即ふれあい会館への移行なのかとかその時は指摘したが、社会教育というのは、自治の力を育くむものであって欲しいと思う。自分たちの公民館にはどういう意味があるのか、利用者やその他の方々住民がみんな考えて、公民館のあり方を作っていく、その策定のプロセス自体が自治の力を育くんでいくのではないか。「おしゃべり会」のような実践をもう1回各館をまわるキャラバンではと言わない。しかし、もしその気運が高まっている館があれば、例えば委員の皆さんと、ぜひ地域教育課の方々も一緒におしゃべり会に応援に行ってみたいと思う。そういうところで利用者の声にたくさん触れて、聞いて、その上でこの審議会の場で公民館のあり方を議論していくようなサイクルがつかれないかなど。ぜひ財団の方にも持ち帰っていただいて、例えば利用者の声をみんなで共有していくような場づくり、機会づくりに一歩踏み出していただけるような館があれば、この審議会で共有していただきたい。

委員

■ ニーズの集約について、今学校現場とかでは、例えばさくら連絡網とかで、公民館でこういう講座があったら参加したいかなど、小中高生にアンケートは取ることはできるのか。そういうアンケートを実施して、ダイレクトに小中高生や保護者の意見を集約できたら、今まで行ってきた公民館活動にはなかった何らかの発想が返ってくるのではないかと。したいことを示してもらわないと、子どもたちもなかなか参加はしないと思うので、各館とかではなく奈良市のどこかの地域で実験的にアンケート調査をすとか、それでもある程度分かると思う。仕事量が増えなくて、なおかつ合理的な数字が掴めたら一番いいと思うので、ぜひニーズを集約するということに焦点を当ててほしい。他の活動にも反映できると思う。

委員

◆ 去年の議論からずっと利用者の声が届いていないのではという危機感がある。ただ、審議会はあと後期に1回あるだけで、私たちも利用者の方の声を知りたいし、知らないとやはりこの審議会が審議できないと思っている。これから生涯学習財団で市民の声を聞くような計画を取っていただく可能性はあるか。

生涯学習財団事務局

◇ 「おしゃべり会」については、10月の12日、13日と中部公民館が「中部公民館文化まつり」を企画しており、その中で1日目に、「公民館の未来を語ろう」ということで、「おしゃべり会」の企画を準備している。アンケートについては、地域のエリアを絞ってということであれば、ある程度実現は可能だと思う。特性が似ている

ところを取っても仕方がないので、ある程度離れたエリアとか、特性的にバラつきを持たせながら見ていく必要がある。今まで聞こえてこなかった声をしっかりと捉えることは、公民館の活用としてもすごく大事だと思うので、もちろん来ている方々からも聞きながら、バランスよく聞き取りたい。かなり実務的なことも入ってくるので、期間を今ここで申し上げることは難しいが、実現に向けて努力をしたい。

委 員

- アンケートの集計結果などをメールで委員に共有していただけたら、次回の審議会までに目を通して意見を求めることもできると思う。

委 員

- 各委員が色々な分野で活動をされているものの、この2時間ではお互いのこともあまり知り合う機会もないということで、懇話会を開いている。定期的に年に1回か2回くらいやっており、完全にこの審議会とは別の有志の交流会であるが、審議会では分からなかったことや聞けなかったところもお互いに確認できる。以前は財団事務局や地域教育課も入っていただいたりした時期もあったので、もしよろしければご参加いただきたい。また、公民館運営審議会の委員について、現在定員が20名のところ10名になり、少数精鋭という形になっている。また次期選出に向けて、委員の人数について事務局にご検討いただけたらと思っている。定員の半分では少ないが、おそらく20人では動きにくくなるという意見もあるかもしれない。最適な人数はその時々であると思うが、もう少し委員の人数を増やしてもいいと思った。色々な団体から声を集約できるようにバランスよく選出いただいているが、ぜひとも公民館の自主グループで活動されている方々や長く公民館に利用者として関わっておられる方々の枠での委員選出をご検討いただきたい。

資 料

会議次第

委員名簿

令和5年度事業資料

令和6年度公民館要覧及び事業資料

その他資料